

自己評価報告書

平成21年8月11日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：平成18年度～平成21年度

課題番号：18203040

研究課題名（和文） 特殊教育とインクルーシブ教育の創造的融合による特別支援教育革新のための総合的研究

研究課題名（英文） Comprehensive Study on Reform of Tokubetsu Shien Kyouiku through Merging Special Education and Inclusive Education Creatively

研究代表者

中村 満紀男（NAKAMURA MAKIO）

東日本国際大学・福祉環境学部・教授

研究者番号：80000280

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：特別支援教育、インクルーシブ教育、特殊教育、差異、専門性、輸入学的研究、障害別カテゴリー

1. 研究計画の概要

（1）特別支援教育の理論的・実践的瑕疵と、教育改革の国際的な標準であるインクルーシブ教育論に潜在する理論的・実践的欠陥とを究明したうえで、特殊教育の遺産の批判的な継承、インクルーシブ教育の理念と実践方法の修正、日本の文化的・社会的文脈を創造的に融合し、日本的なインクルーシブ教育を構築することを旨とする。

（2）従来の外国研究の輸入学的な現状を打開し、日本の特別支援教育の現実を改善する教育学的方策を、理念・制度・教育課程を中心に具体的に提案する。

2. 研究の進捗状況

（1）日本の特別支援教育の実体は、インクルーシブ教育の特長を摂取しながらも、それを十分に実体化することができず、特殊教育の部分的な改革に留まっている。その理由は、特別支援教育におけるインクルーシブ教育理論の理解不足、とりわけ通常教育との関係構築とそのため教育改革への制度設計の不在という根本的問題にある。

（2）他方で、インクルーシブ教育においても、画期的な面とともに理論的・実践的な欠陥がある。それは、端的にいえば画一性と欧米的基準にあり、分離＝差別論、障害別の独自性の軽視、欧米とは異なる文脈の理解不足を生むことになっている。

（3）いいかえれば、特殊教育をどのように評価するかという問題である。特殊教育に対して、特別支援教育では継承を、インクルーシブ教育では決別を主張しているが、インク

ルーシブ教育の理念に部分的にせよ従うならば、特殊教育の単純な継承はあり得ない。特殊教育に対する決別も、特殊教育を障害者の排除を意図したとする一面的な評価に結果しているが、何より専門性における貴重な遺産の放棄は利益なき消耗である。

（4）日本の1980年代以降の障害児教育の実践的レベルは障害種別によって差はあるが、世界的に見てもかなり高いと思われるが、それを実感できないのは、研究の輸入学的傾向が一因である。また、日本の特殊教育の遺産を資産とするには、日本の文脈に基づきながら、障害児教育の全体において、また障害者の社会における位置と連続させて評価することも必要である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

本研究課題は、日本の障害児教育の改革（特別支援教育）ならびに国際的な動向（インクルーシブ教育）という点でタイムリーだったことに加えて、これまでの関連業績における相当な研究蓄積のうえに展開できた。①の「当初の計画以上に進展している」との評価に至らないのは、本研究がカバーできない基礎的研究成果が不足しているためである。

4. 今後の研究の推進方策

質量ともかなりの程度充実してきた日本の障害児教育学において、現在においてもなお輸入学的状況が強いが、それを改善・克服するには、その状況を発生させている諸要

因の分析が必要である。なかでも、欧米先進国を唯一の評価基準としてきたことが決定的に重要な要因であると考えられる。とりわけ実践レベルでは、欧米を凌駕する事例も多いことを考えると、理論レベルでの対応に着手・蓄積し、それを英語で対外に発信することが必要である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ① Nakamura, M. et al. Proposal of a new education system for children with disabilities in Japan and South Korea, 特殊教育学研究、46(6)、555-590、査読無
- ② 中村満紀男、岡典子、障害児教育における目的・本質論の歴史的変遷とその理論的・実践的意義—序説、障害科学研究、33、2009、113-126、査読有
- ③ 木村素子、岡典子、中村満紀男、19世紀末米国公立学校制度聾学校における口話法イニシアティブへの転換とその背景、障害科学研究、33、25-43、2009、査読有
- ④ 米田宏樹、日本における知的障害教育試行の帰結点としての生活教育—戦後初期の教育実践を中心に—、障害科学研究、33、145-157、2009、査読有
- ⑤ 中村満紀男、20世紀初頭クリーブランド公立学校における問題行動から学業不振・精神薄弱の分化過程、障害科学研究、32、21-34、2008、査読有
- ⑥ Nakamura, M. and Oka, N. Eugenics' views on democracy in relation to "the feeble-minded" in Pre-World War II America, 特殊教育学研究、45(6)、2008、査読有
- ⑦ Ikeda, N. and Kawai, Y. Present situation and problems of special Education in Pakistan—Characteristics and Issues of special schools by bodies administering them, The Bulletin of Research and Praxis Center for Education of Children with Disabilities, 14、41-51、2008、査読無
- ⑧ 河合康、イギリスにおけるインテグレーション及びインクルージョンをめぐる施策の展開、上越教育大学研究紀要、26、381-389、2007、査読無
- ⑨ 佐々木順二、和歌山県立盲啞学校における教育組織・方法の確立と保護機能の分離—大正4年～昭和9年—、聴覚言語障害、34(3)、103-111、2007、査読無
- ⑩ Sasaki, J. The Ideological and social

basis of the establishment of the school for the blind and the deaf in Japan: Focusing on Fukuoka Prefecture, 1899-1909, Journal of Asia-Pacific Special Education, 6(1)、67-82、2007、査読有

- ⑪ 中村満紀男、千賀愛・高橋智 (2005) 「特別な教育的配慮の史的研究」 批判—障害児教育史研究の基本的手続きを中心に、障害科学研究、31、3-19、2007、査読有

[学会発表] (計 2 件)

- ① 中村満紀男、安藤隆男ほか、日韓における新しい障害児教育の意義と展開、日本特殊教育学会第 46 回大会学会企画シンポジウム、2008. 9. 21、米子コンベンションセンター
- ② 河合康、岡典子、中村満紀男ほか、欧米インクルーシブ教育のインパクト—理念と制度、日本特殊教育学会第 45 回大会学会企画シンポジウム、2007. 9. 24、神戸国際会議場

[図書] (計 3 件)

- ① 安藤隆男、中村満紀男、河合康、岡典子、米田宏樹ほか、明石書店、特別支援教育を創造するための教育学、2009、1-426
- ② 中村満紀男、岡典子、河合康、米田宏樹、柳本雄次、佐々木順二ほか、コレール社、理解と支援のための特別支援教育、2008、1-252
- ③ 中村満紀男、四日市章、安藤隆男、岡典子、佐々木順二、柳本雄次、米田宏樹ほか、明石書店、障害科学とはなにか、2008、1-325

[産業財産権]

- 出願状況 (計 件)
該当なし
- 取得状況 (計 件)
該当なし

[その他]